



The Night of
Avalon Land

「籠の鳥」を思って。

実はアイリスって

作者として描いていて醍醐味あるキャラなんですね。

まあアイリスとギュンターが居ると、それは場が華やいで

(どっちもモテまくりの美男なので)

楽しいっちゃあ楽しいんですが、アイリスはいつも作者の予想を裏切るセリフを吐く。

彼同様ギュンターも、なんかストレートにズバ斬りして来ます。

オーガスは愉快的なキャラで

ローフィスはしゃべらせると爽快です。

けど、アイリスもギュンターも、こんな環境で

これだけ美形なら、とっくにねじ曲がるか

世間ずれして流されるかするのに

二人は断固として自分を貫きまくってる。

だからしゃべらせると面白いんでしょうか。

中でもアイリスは弁達者なので

本当に意外なセリフをぽんぽんと吐く。

アリルサーシャに言ったセリフも笑えます。

「多分...普通男女の仲は、出かけたりお付き合いをしている内に深めるものだけれど

私はつまり...直ぐに一番深いお付き合いを、相手に求めてしまうし

それに応えられる女性をととても、好むので」

ようするに、『直ぐ寝られる相手がいい』

とお上品な言い回しで言っている。

私がこういう言い回しを面白い。と感じたのは

アレクサンドル・デュマの「三銃士」を

小説で読んでから。

太陽王ルイ14世がまだ子供の頃の宮廷の話で

最高に面白かったです。

で、読んでると凄く遠回しの言い方で

後で「あ、こういう事か」と。

謎解きみたいに、「これは何を言ってるんだらう？」

と毎度遠回しなお上品な言い方を

解明しては楽しんでました。

でも自分をセリフを考えると成ると

なかなか直ぐには出てこないのに

アイリスを書き始めるとスラスラ出て来る。

こんな風に、作者を唸らせるキャラが結構居て

ディングレーなんかはセリフでは無く

行動で泣かせてくれます。

頑健な男前でいつも偉そうにしてる王族なのに。

「ここまで純粋か？」

って思う程、内面は一途です。

更にディアヴォロスに至ると

作者が大変気遣うキャラです。

でも本人は気さくで、千里眼の光竜ワーキュラスと一緒になので

とても理解があります。

でもこの人も実は相当な遊び人で

シェイルが初めて出会った旅の途中も

ディアヴォロスが居たのは別宅だったんだけど

入れ替わり立ち替わり交友関係(えっちを含む)

が出入りしてました。（笑）

今「二年目」連載してますけど

ちっとも本題の、ギュンターとローランデのロマンスに至らない。

ギュンターって忙しいし。

脇のキャラとか結構詳しく書いてると

全然本題に行きませんが

この「教練」時代が後の

彼らの結びつきを作るので

作者としても「へー、そうなんだ」

と結構新鮮です。

ぱぷーで連載が出来る。

と聞いて、トライしてみたものの...やはりちょっと面倒だったので

別に載せてしまいました。

「幼い頃」でも「二年目」でも

タマに作者としての意見を (... **By**作者) とくくって

入れていますけど、時間ある時ぼやきをここに載せようと思ってます。

暇な人は覗いてみて下さい。

作者の気持ちが少し、解るかも。

アースルーリンドはキャラが作ってて

あくまで作者は裏方。

演出。衣装。背景。撮影。

?等を担当。

シナリオは...大昔作ってたけど、キャラ達が結局好き勝手するので

もう手に負えません。

最近はキャラに任せっきりです。

なんて情けない作者...

以前ついでとでも書いたけど

籠の鳥のアイリスのセリフで

「...なら戦うべきだ。

ご自分を幸福にする為に。

ただ生きて居るだけなら、死んでいるのと変わらない。

病は言い訳にしか過ぎない。

生きようとする事を阻害するのは、病の他に山程あって...

幸福に成りたいと思う人は皆...いつでも戦っています」

これを書いた時、タイプしながら自分でも

「ひえええ...アイリスが真っ当な事言ってる。

説教臭くならないのがアイリスらしい」

でもこの後ア Ril サーシャが

「...なに.....と.....？」

と突っ込んでしまい、慌てたのは作者。

だって脳みそ真っ白。

え？何と？

何と戦ってるんだらう....。

するとアイリスが

「諦めてしまう自分と」

キレイに決めてくれました。

もう本当に、この時思った。

キャラに任せとけば間違いない。

私は所詮彼らの生（せい）を生きてないけど

連中はちゃんと自分を生きてるんだから

ブレない言葉が吐けるんだ。

.....ぜーぜー。

作者の苦勞が、少し解って頂けると嬉しいです。

「二年目」で、ディングレーの取り巻き大貴族らが出て来ます。

書いてて、近衛に上がった後ディングレーってば

ローフィスが隊長の、副隊長をしています。

んじゃこの取り巻き達はどうなったんだろう？

まあ多分、ディアヴォロスのどこかの部隊には入ってる筈。

後、シェイルの居る直属部隊とか特殊な精鋭部隊があるから

そこに居るのかも。

焦点当ててないのでも不鮮明ですが。

このデルアンダーが隊長？の取り巻き部隊を

ディングレー入学当初から追っかけてみるのも

書きではあるとは思いますが。

けど「幼い頃」すら保留にしているのに

多分時間無くて無理。

で、全員詳しく書くと大変なので

デルアンダーとテスアッソン二人をピックアップして書いてます。

オーガスタスの友人達も

リーラスとローフィスが代表しています。

どっちも、詳しく書くと楽しい面々でしょう。

ディングレー取り巻きは大貴族ばっかで品があり

躰良く礼儀正しく、規律も正しい

紳士で同時に剛の者達。

しかしオーガスタスの友人達は皆平貴族で

気のいい面白くて破天荒な暴れん坊ばっか。

アイリスとスフォルツァらの一年大貴族達は

フィフィールース、アッサリア、ディオネルデス。と三人も出しちゃって...

もう絵なんて描いた日には

全員似た様な顔に成っちゃう。

まあとっくでしょうが。

ディアヴォロスとシェイルの出会いをアップして思った事。

実はドリームドライブであっぷしていた

ギュンターとディンダーデン初の出会い。を上げようかと

原稿探していて見つけました。

途中書きだと思ったら完結していたので

ちょい直して....

でも肝心な、ディンダーデンとギュンターの出会いは

かなり直さなきゃ。でした.....

まあ、このディアヴォロスとディンダーデンは「幼い頃」で活躍してるキャラなので

(なんと二人は同い年)

寂しがってないで、さっさと連載再開しろよ！

って感じは感じですが....

じつはあの後は大混乱で、作者も頭と場面の整理が要るんですね。

ただ「二年目」ですら追っつかないくらい時間無くて

ちよいやバ.....。

今ひたすら「二年目」の書きだめしてます。

途中イラストとか描いてるから、余計時間無い....。

書く前は文は余裕で書いてたのに。

イラストは特に、キャラが要るんで....。

私の腕では十分イメージが書き出せないんですよ（涙）

もっといいペンタブが出てるそうですが

一番安くて10万じゃ、手が出ない。

何かいい儲け話あったら教えて。

あ、断っておきますが「儲かります」と言って

逆に払うハメになる詐欺はお断りです～。

「儲けたかったら、払うべき！」

なんて騙し言葉は、呆れかえっちゃうので。

だって私が「儲かる」んじゃない、言ってきたヤツが儲かる仕組みなんで

本人は「嘘じゃない」

...そうだよ。自分の懐が潤うもんね。

私の懐じゃなくて。

...まあともかく、ペントブが良くてもやっぱり肝心のデッサン力と表現力が今一なので

何とも言えませんね。

ただやっぱり思った線が、書けないのも事実。

ゆえに、紙に書いてスキャナった絵とペントブ変えて描いた絵では

やっぱり違ったりします。

ソフトでも違うし。

しかし継続は力なので

技術だけは向上してるかも。

それでも絵描く時間で、一章分とは言わないけど

その1/5くらいは、書けるはず.....。

毎度、がーっっっとして書いてると

変換のお馬鹿言葉に腹立ちますが。

どうして一度も使ってない言葉が、第一候補で出るかな？

ここで「来い！」と思ってる言葉がうんと後。

かなりの確率で使用してる言葉なのに....。

やっぱり変換は携帯が一番お利口？

まあともかく.....。

ディアヴォロスとシェイル。そしてローフィスのお話と

ローランデとギュンターの近衛時代のお話。

そして更に、大陸エルデルシュベインの、アースルーリンド以外の土地のお話。

と書きたいネタはいっぱいあるから

もう余分な事考えずにひたすら書くのがお利口なのかも。

やっぱり心に残ってる1シーンがあるので

それを表現したくて四苦八苦しちゃいます。

あがく作者に栄光あれ。

ワーキュラス、よろしく。

レイファスの恋心。についての、ファントレイユの見解。

馬上のファントレイユ。



正直、このネタでずっとレイファスはファントレイユに呆れられる事に成るんだけど...

アイリスに凄く憧れていたのはファントレイユだったし
機会があればアイリスかテテユスと寝たい。
とってたのはファントレイユの方だったのに。

テテユス同様、凄く複雑だったんじゃないのかな。
と聞いてみたい気がしたけど
毎度機会を逃してるから聞いてみる事にした。

「...まあそりゃ、複雑だったけど...。
レイファスが乱暴された時側に居て
惨状を知ってるし
アイリスが抱いて慰めてくれて正直、ほっとしたし
アイリスならレイファスの中から
あの最悪な体験を完全に消し去るくらい出来ると思ったし
アイリスは本当に頼もしかったから...」

と言い、その後ちょっと、きっ！とした顔をした。

「けど、レイファスは立ち直ってもアイリスに甘えっぱなしで迷惑かけても平気で...。
あれは正直、許せなかった。
世間に知れ渡る程関係を続けるだなんて！

まあ自分に置き換えてみたけど
アイリスに恋人扱いなんてされたら、有頂天になって周囲の思惑なんか綺麗に忘れちゃっても
無理ないか。とも思えるんだけど。

でもその後、テテウスがアイリスを避ける程思い悩んで
アイリスはテテウスに避けられてもの凄く落ち込んで...

親子の間を裂くなんて絶対、やり過ぎだと思う！」

.....ええと.....。

嫉妬したかどうかを聞いたかったんだけど。

「.....それどころじゃなかった」

...そうでしょうね。

「とにかく、アイリスの様子見てテテウスに
『避けないで、ちゃんと話したら？』
とか勧めて、仲を修復しようとしたんだ。
でも、テテウスはアイリスを父親として軽蔑してるんじゃないくて
恋敵としては強敵過ぎて
レイファスを自分に振り向かせてアイリスから奪うだけの
男としての魅力が自分には無い。
って落ち込まれて、何も言えなくなって.....。
その後アイリスと会ったけど
彼を目前にして
恋人じゃなくて恋敵だったら
自分も絶対、テテウスのように敵(かな)わないって思って
落ち込む事請け合いだ。
と思い知る程、格好良くて美しくて頼もしくて
最高にいい男で.....。

なんかその後僕までテテユスと一緒に落ち込んで
テテユスに『ごめんね』って言われた」

.....駄目じゃん。
完全に力不足じゃん。

落ち込んでるテテユスに慰められるなんて。

ファントレイユ、長い間沈黙。

まあこの、スーパー素直な所がファントレイユのいい所。
と言えなくも無いけど。

「...アイリスは出来れば恋人にして
絶対恋敵に成って欲しくないな。
と思ったけど.....」

けど？

「その後のレイファスがその...。
ともかく、アイリスが落ち込んでるのが耐えられなくて
自分から身を引いた。
と言われた時
『遅いよ！
どうせ身を引くなら、もっと早くに出来なかったの?!』
と怒ったら
レイファスに思い切り軽蔑の眼で見られた。
『あれだけ魅力的な男なんだ！
簡単に、去れると思う？
彼に冷たく袖にされれば別だけど』
『アイリスは、絶対しないね』
...そう言ったらレイファスは項垂れて
『だから、自分が身を引くしかないじゃないか！』
で、僕は言ったんだ。
『家出してアイリスのところに押しかける前に
気づけば良かったんだ。』

あれでアイリスはアリシャもセフィリアも敵に回し
世間で極悪人扱いされ
テテュスは顔も見たくない程
避け回ったんだから！』

そしたらレイファスにじっと見られて言われた。

『アリシャが言う、アイリスの悪口にどうしたって耐えられなくて限界だった！』
だから言ってやった。

『僕だったら、アイリスのところに逃げ込まず
自分で対決して母に悪口言うのを止めさせる！』

レイファスは呆れた顔で僕にこういった。

『止めなきゃ自殺してやる。とか脅して？』」

.....で？

ファントレイユ、また沈黙。

「...レイファスは...アリシャの体が弱いから
そんなショック、与えたくなかったんだ。って気づいた。
きっとレイファスがそう脅したらアリシャ、倒れちゃう。

けど、アイリスの悪口言ってる時、アリシャは元気だから.....」

そして顔を上げた。

「きっと僕だったらそこ迄気が回らず
脅して倒れられてから真っ青に成る」

...そうだね。

レイファスって気が回りすぎるから...。

「アイリスのところに逃げ込むのが
レイファスに出来た精一杯の、アリシャへの抗議だった。って後で気づいて...。
もうあんまりどうにも成らなくて、泣きたく成った」

...そうね.....。

ファントレイユも、大変だったんだね。

彼は、頷く。

「つまりそんな風だったから、嫉妬してる間も無かった」

...成る程。

で、やっぱりファントレイユも本心は
レイファスに、アイリスを超える様な恋人はもうこの先
出来ないと思ってる？

「全然当たり前の事を、聞くか？普通。
出来ないに決まってる！
でもレイファスが落ち込むなんて滅多に無かったから
あの時は頷くしか無かったし
レイファスが遅しく立ち直った後は
ちゃんときっぱり言った。
『絶対出来ない』って」

.....。

「恋の勝者」続編...

これは「読みたいから」とアメンバー申請頂いたので
「そんなん載っけていたっけ」と慌てて探していたら...
作者なのに読めない。

他の限定記事は読めるのに。
記事が出なくて真っ白。
で、元の記事探したけど
編集画面に文字もちゃんと載ってる。

なんで出ないの？削除？
18禁ネタじゃないのに。

でつい、訳分かんなくて動揺して
パプーでこれ載せる時最初間違えて、年齢制限入れちゃった。
全然濡れ場無いのに。

「恋の勝者」は、ギュンターが近衛一年目でローランデが最上級の四年。
の頃の一年間のお話。

けど一年もあるから、もう少し突っ込んで書きたいかも。
と書き直すつもりでいた。

この卒業間近。
ローランデは揺れに揺れ、子供は産まれるけど
デルアンネは苦手。

ギュンターが窮状を救い、近衛に進む事を
デルアンネに無理矢理了承させる。

けどローランデに取っては、ギュンターも大変。
事実、ギュンターの関係でこの後近衛で大変な目に合う。

けどこの進路で心揺れているローランデ。
教練卒業後、近衛に進むまで父大公の手伝いに故郷に戻り
(この件は『卒業』ですね。

順番としては『恋の勝者』『道行き(恋の勝者 続編)』『卒業』
なんですけど)

その後、運命の相手、フェールラとの出会いがあるんですね。

つまりデルアンネとの子、マリーエルが産まれた年に知り合って
フェールラと二人の恋は短期間に燃え上がり
たった二週間で幕を閉じ
フェールラはローランデの前から姿を消してしまう…。

その一年後にフェールラとの子、テレッセンが産まれますから
マリーエルの一歳年下の弟なんですね。テレッセンって。

けど髪の色以外は母親似のマリーエルと違い
テレッセンは顔立ちと性格がローランデ似。

マリーエルはローランデ大好き少年だったから
テレッセンに一目会って以来テレッセンに夢中。

母デルアンネもどうしようもなくローランデが好きだけど
マリーエルも夢中。

旦那に、父に恋してる親子なんですね。
デルアンネとマリーエルって。

二人の会話は結構笑える。
デルアンネはローランデに惚れているけど
「風と共に去りぬ」のスカレットがレットじゃなく
アシュレーに恋い焦がれてるのに似てる。

ローランデの為に自分を変える気はデルアンネには毛頭無く
(無理ありません。いつも取り巻き山程いて
ちやほやされてて我が儘放題だから。
ローランデが大公子息じゃなかったら
多分デルアンネは惚れなかった。
大公子息である容姿、性格だから惚れたんですね)

ローランデはデルアンネ(護衛連隊)かギュンター(近衛)かと言う時

どっちも自分を貫き通す野獣だったけどギュンターを選んだのは
ギュンターは大公子息で無くてローランデが好きだったから。
純粋に、ローランデの人柄とか姿に惚れてたからのようです。

まあデルアンネより、ギュンターのが付き合い長かったせいもあるかもだし
教練の友達とも離れがたかったと思います。

でもって、ローランデとフェールラの物語も書きたかったけど
なかなか書けずにいます。

どうしてフェールラがローランデから去ったのか。
が最大の焦点でしょう。

しかしローランデの方は、途中ギュンターに出会ったときっぱり言います。
「好きな女性が出来た」
と。

しかし上手くいかない者で、告げたその後フェールラは姿を消す。
結果ギュンターはローランデを慰める事に。

まあ自分から去ろうとしたローランデを、恨むどころか
ローランデが落ち込むのが見えて辛いギュンターですから。

どこ迄ローランデには甘いんだ？ってくらい
ギュンターってローランデにイカれてます。

本当は情事だって、もっと優しく、楽しくしたいんでしょうが
相手がローランデじゃ、強引に奪わなきゃさせてくれません。

真っ当に口説いてたら
ずーっと体よく断られ、逃げられ続ける事でしょう。

更にローランデは恋愛オンチで天然ボケ。

そのローランデが！

フェールラの時はとんとん拍子。

とってもスムーズにロマンチックに

彼女とそうなったので「やっと自分もマトモな恋愛が！」

とローランデが舞い上がったのは、無理ありません。

しかしその時既に二人の邪魔者が。

デルアンネは村娘なんかにローランデを渡すなんてとんでもない！

ですし、ギュンターはローランデが真剣に惚れた女が出来たら

身を引く。と決めていたけど

ローランデの方が...ギュンターとの関わりを恥じていたので

フェールラに「真っ当な男で無くて申し訳ない」と

負い目を感じています。

まあその内時間が出来たら書きます。

フェールラは、ローランデが惚れるのも無理無い。

って感じの、叔父さんが経営してる酒場で働く村娘ですけど

皆のマドンナ。

素敵な女性です。

けど北領地[シェンダー・ラーデン]の社交界で、一・二を争う

男性に取り囲まれる女性としてのプライドの高いデルアンネにとっては

自分を手に入れられる男は幸せ。

自分と社交界のライバル以外の女はクズ。

って思ってますから...。

フェールラは「何この女」って感じで、どうしてローランデが惚れるのかも

理解出来ない感じです。

ともかく...可愛そうなローランデ。

やっぱり、ギュンターに惚れられた事が

最大の不幸？のようです。

それが無かったらもうちょっと理性も働き

デルアンネの「大公婦人になりたい」誘惑にも

対処できたかもです。

ああ、今またギュンターの溜息が聞こえた。

責任取って命かけても

「そんな事して欲しく無い！」

ってローランデに怒られ

最後に泣かれちゃ、ギンターどうしようも無いですしね（笑）（笑）（笑）

ああこうなると、作者って気楽な立場だわ。

オーガスタスの一日。の直し。

オーガスタスの一日をアップするにあたり
以前から気になってた部分を直さなきゃ。と思った。

校正ってやり始めると最悪。

実はパプーにしたディアヴォロスの話もしないとマズい。

オーガスタスの一日。は
当時オーガスタスが乗り移って？
書いたんで、どうやって直そう…。

と面倒で放って置いた。
文には流れとリズムがある。

だから、そのリズムや流れを阻害する部分を
流れよく文足したり引いたりするもんだが
ピタッとハマる言葉が出ないと
時々思い出すか思いつく迄放って置く事がある。

まあ今回、ちょい言葉足すだけで何とかなった。

足しすぎると他みんな直さなきゃ。
と大工事になったりもするので

あくまでも雰囲気壊さない程度。
流れが良くなる程度に直す。

絵も同様に、「やり過ぎた…」
と思う時もあるし、丁度いい加減で綺麗に仕上げるには
自制とカンが要る。

自分の好みもあるし
どんな風の仕上がりが望ましいか。で
直し具合も違ってくる。

実は表紙絵を直した。

やっぱり毎度直してばかりいたので
絵の直し技術は向上している。

ただ以前はうんと遊んだ。

あれやってみたり、これやってみたりして
思いもかけない色や表現が浮かび上がると楽しい。

二度と出来なかつたりするけど。

つまりGIMPが大好きなのは
それだけ色々遊べるからだ。

しかし仕上げとなると、やはりフォトショの色調節が必要に成る。
その前は、ペイント・ショップ・プロを使っていた。

ペイント・ショップ・プロのクローンブラシは
どんな絵でも再生出来る。

筆でコピーするので、好きな場所に好きなように
元の絵をコピーして入れられる。

ただ、ペイント・ショップ・プロ程奔放に使えないけど
GIMPにもあって、たまに使う。

殆ど修正でだけど。

GIMPのいい所は指先ツール。

これがあるから、自分の好きな感じに持って行ける。

フォトショの指先とはやっぱり違う。

フォトショの指先ツールは指定した色が出る。

しかしGIMPのツールは、本当に指先でなぞってる感じなのだ。

もしSAIにこれがあれば最強だけど

私はGIMPの、ちょっと枯れた感じの色が好きで

最終的には明るくするんだけど

やっぱりGIMPは雰囲気が出る。

現代物で無く、昔の騎士物を書くので年代っぽさが出るのである。

オーガスタスからとっても離れちゃったけど。
オーガスタスにしろ、マレーにしろ。
大変な思いをした奴は深い。

だから、ギュンターの本質を一目で見抜いたし
ギュンターも表面の上っ面じゃなく本質見てくれる
オーガスタスが、とっても気に入ったんだと思う。

何にしろ、オーガスタスが人気なのは彼の器の大きさ。
本当に、書いてて楽しいキャラだ。

彼が初めて出たのは、今引っ込めてる「小説からなろう」サイトに以前掲載していた北領地[シェンダー・ラーデン]の恋人。

この回想シーンで。
ギュンターがローランデを助け出した後、出て来て気絶するギュンターを抱き上げる。

この二人のやり取りが笑えた。

オーガスタスが聞く。
「だが手ぐらい貸してもいいだろう？」
そう言って手を差し出すが、その手を、ギュンターは叩き払い、怒鳴った。
「今手を借りたりしたら、気絶するじゃないか！」

ギュンターって本当に、基本ギャグ。
しかしこの時側にローランデが居たから
気絶寸前なのにカッコつけてるのである。

馬鹿なんだけど。
ローランデの前では大丈夫。でいたかったギュンター。
傷を負ったのはローランデのせいなので。

しかしそれですら、大元は自分のせいだと、虚勢張るギュンター。
オーガスタスには全部、お見通しだから彼はいい。

こっそりローランデに隠れろ。と言い
「ローランデはもう居ない」

言った途端ギュンターは気絶し、それを抱き止めるオーガスタス。
もう彼が大好きで
書いて楽しかった。

この当時は栗毛でディンダーデンっぽい髪だったけど
どういう訳か後、赤毛に。

しかし海外ドラマとか見てて、赤毛。と呼ばれてる人々が
私には栗毛に見えるから...。
まあ、いいか。

オーガスタスは大らかで茶目っ気ある男で、
ディンダーデンは偉そうで綺麗な格好いい男。

ギュンターはオーガスタスが、自分の兄貴達より優しいので好きみたい。
ディンダーデンは弟達より刺激的で、手本見せなくて良くて連めるので
楽しいみたい。

オーガスタスはギュンターといると退屈しないし根が同類で好きだし
ディンダーデンはギュンターが意外と物わかり良く
世話してくれるので好きらしい。

『二年目』再校正

再校正してます。

最終校正にしたいけど
まだ誤字とか見つかる…。

はああああああ。

私は結構、文のリズムにこだわるので
語呂がいいように、あっち足したりこっち引いたり…。

けど、説明文を足すと、以前のリズムが崩れるので
点の位置直したり
同じ内容で語呂が納まる言葉に直したり…。

で、直してる内に訳分かんなくなる事も度々…。

しかも昔は詰め詰め。
けど携帯だと詰まってる読みにくい。と聞いて…。

途中から、改行入れるように成ってから
今度はあきあきに。

しかもちょっと人の見て
喋るキャラ毎に行間あけたら
リズム狂いまくり…。

これを統一するのが…苦労なんですよ…（涙）

詰まっても読みにくい。
飽きすぎても、白ける。

この辺りの案配、お話書くより難しいかも。

神聖神殿隊騎士と神聖騎士

ただ今、「幼い頃」にて

神聖神殿隊騎士たちが盛大に戦っています。

神聖神殿隊騎士と長ったらしく呼んでるものの

本当は神殿隊騎士。になるんですね。

で、この間アースラフテスの挿絵描いたけど

神聖騎士と違って神聖神殿隊騎士には隊服がナイ。

神聖騎士達は『光の王』の末裔。

神聖神殿隊騎士は『光の王』の、お付きの者達の末裔。

『光の王』は人格も重要視されるけど

お付きの者達は強さ。が重視されるので…。

礼儀もそれ程正しくなく、個性豊かで荒っぽいです。

正直、神聖騎士達って結局

王家の王女と婚姻を果たすので

その子供達は王族なんですね。

けど『光の民』の血が入っていると

通常の世界ではとても暮らせないので

『光の谷』と呼ばれる地で

光の結界の中で暮らしています。

そのお話もポコポコ出るんですけど…。

中には人間の血の方が

色濃く出て能力使えない者だっているんですね。

『光の王』の末裔が暮らすのは光の谷。

お付きの護衛官達の末裔の住む住居は光の里。

光の里。は人間にも割と門戸を開くけど

光の谷。は、あまり人間は馴染み無い土地。

神秘のベールに覆われています。

明るく開放的に光の里と違って

光の谷。では…色々秘密があるようです。

作者もまだ突っ込んでないので

おおよその事しか解っていません。

ただ、神聖神殿隊の方は（通称東の聖地）

神聖神殿隊付き連隊と深く関わりがあって

人間が出入りしようが

平気で練習試合と称し、炎放ったり氷ブツけたりの対決を

広い庭でしていたりします。

なんで、外来者を護る“案内人”は、訪れる人間を

事故から護ってます（笑）

なので神聖神殿隊付き連隊は、かなりの常識外れでも

対抗できる程神経ずたく無いと駄目です。

ギュンターみたいに

「戦う相手は人間と決めてる」

なんて、言ってもらえません。

神聖騎士は現在、ダンザイン、ウェラハス、アーチェラス、ホールーン

ドロレス、ムアール、エイリルの六人しか出してませんが

10～12人程は居る...筈です。

これに対し、神聖神殿隊騎士はぞろぞろ居る。

40～60くらい。

主要部隊は20人くらいでしょうが。

神聖騎士になる方が、審査が厳しいので少なくて

神聖神殿隊騎士は甘いので多いんです。

...で、別に戦う相手がしょっちゅう居る訳じゃ無いので

元気余ってるんですね。

で結局仲間同士で

しょっちゅう「練習試合」しています。

能力使っての戦いですので

暇なヤツに喧嘩ふっかけられると、大変です。

性格も荒っぽいので、がんがん攻撃して来ますからね。

そんな訳で

『闇の第二』放つヴォイヴォカンも山程沸いて出ますが

神聖神殿隊騎士も、負けてないです。

忘れ得ぬ出会い を書き終わって。

相変わらずどういう訳か、アップした後色々と気づく。

正直、これは屋台骨で、物語にしたらもっと長く鮮やかに描く事になる。
ゼッデネスの新兵の逸話や駆け落ちの計画の話など、もっと丁寧に書くと
長くなる。

けど、作者が保たない。

俺の死んだ日。から始まり、思い出の館ヴィラヴィクス邸で

書きながらやたら泣けた。

ヴィラヴィクス邸では、ゼッデネスの告白を書きとめた形だけど
読者も思ったかも知れないけど
作者も思った。

どうして...ゼッデネスは何の躊躇いもなくオーガスタスを引き取ったのか。
どうして...あれ程酒浸りで荒れてたのに
オーガスタスを手に入れて立ち直ったのか。

その辺り、作者がぼやかしてるとか思ってらっしゃるかもだけど
違ってた。

どうして？

とゼッデネスに聞いたら、オーガスタスの父親、オーオールディーンの姿が揺らめいた。

その辺りに突っ込んで行くと、後は一気。
ゼッデネスの心が噴出した。

まあ...言いたがらない理由は解る。

オーオールディーンに対しては...大層複雑ないきさつがあったみたいだから。

アップ仕立ては作者がゼッデネスの想いに引きずられ
混乱した思考をそのまま載せちゃったので
(正直言うと入り込みすぎて
書く度泣けて、思考能力が最悪。

しかも泣きすぎて頭痛、肩こりが酷かったから)

ともかく...幸せだと信じていた彼の...本当は大好きでもの凄い影響与えた人物が死んだ。と知らされてこの時のゼッデネスのショックは...相当だったと思う。

否定して否定して...

自分が強く、生きていく為に彼への気持ちを否定していたゼッデネスだったから...。余計なんだと思う。

ただ、オーオールディーンの死は本当に事故だったのか。

これは...実は、かなり怪しい。

オーオールディーンの、駆け落ち後の生活を描けば多分あちこちに出没する大公家の追っ手との、攻防になると思う。

大公家は、アイリスの叔父、エルベスもそうだが強大な権力を維持する為に、そこら中に密偵と部下を配置してる。

オーガスタスの母親、アンナネスタはそんな凄い家の男に惚れ込まれてた。当然、オーオールディーンが准将に、成ってしまえば妻に出来ないから大層結婚を、急がせて二人を追い詰めたんだろう。二人共利口に生きれば...

アンナネスタは大公夫人。

オーオールディーンは近衛准将。

輝かしい場所に、居たに違いない。

けれど二人が真に幸福だった事はオーガスタスだけが知っている。

二人の大切な愛の結晶が、彼だからだ。

でもそれを知ったからと言って、好きなだけ暴れて、立派に逝きたい。と言うオーガスタスの生き様が、簡単に覆るとは思えない。

ギュンター同様、オーガスタスも現実しか見ていない。

だからこそ、二人共があれ程
その現実の中で悔い無いよういつも
全力で戦う姿は人の心を打つ。

良くも悪くも、二人が戦い始めると、人の皮被った野獣。
だからこそ強く、だからこそ恐れられ...そして、自身が護りたい者を
護る事が出来るのだと思う。

いつも戦ってる彼らは
卑怯な手を使われ
「卑怯だぞ！」
なんて怒鳴ってたら命が無くなる。と知っている。

でもだからと言って...やっぱりそれでも人間だから
本当は救いを求めている。

そう思ってるから、義の為に戦い
義の為に死にたいのだろう...

で、後作者が不思議だったのは
ヴィラヴィクス邸ってかなり高いと思う。
相当の金額なんだけど、ディアヴォロスってそんなにお金持ちなの？

王族って、凄い持ってるから、あんな高価なプレゼントも、出来ちゃうの？

領地の管理。とかそっちになると、上のディアヴォロス達とかは関わらないから
知らない内にお金は入ってるらしい。

左将軍職でかなり入るし。

そう言えばアシュアークも、王族が住む城が買えるくらいの金額を
近衛で死んだ一家族に、追悼金？として払っちゃった。
ってくらい、金銭感覚がおかしい。

その辺り聞いたら、ディアヴォロスさん、苦笑してた。
やっぱりそれぞれの家で管理する者が居て、かなりの領地を所有してるから
そこからお金が入るらしい。

けどやっぱりやり方まずくて、没落した王族も居る訳だから...。
任せる相手がへボだったり、私欲を肥やしてたりすると、最悪みたい。

こっそり教えてくれたけど、どうやらヴィラヴィクス邸は、お金払ってないらしい。
何かと取引して、手に入れたようだ。

ヴィラヴィクス邸を買い取ったのは大公家だから、当然ディアヴォロスに口聞いて貰い
自分達の利益になるような役職に息子を付けるとか...

自分の威光を示したい舞踏会に、ディアヴォロスに顔出して貰うとか。

そういう風取引して手に入れたらしいから、ある意味、ディアヴォロスは自分が働いて買った
。
と思ってるらしい。

自分が働く事で手に入ったのだから、通常人が人にプレゼントする時
やっぱり同様働いたお金で贈り物をするのと変わらない。

ただ...ディアヴォロスは王族だし、ちょっと働きかけただけで
凄い役職とか手に入ったり
彼と懇意にしてる。と言うだけで物事が有利に動いたり
その動く金額って莫大だから

オーガスタスに高すぎる！
と怒られても、無理無いと思う。

でもディアヴォロスにとっては、たまたま機会があって手に入れて
オーガスタスの義父が彼を手に入れる為手放したものだから
プレゼント出来るのがとっても、嬉しかったみたいだ。

連中が近衛舞台を移してからのお話も書きたいけど
まだ『二年目』が終わってないので、無理でしょう。

ただ...

ディアヴォロスは、表面の言葉で無く、心で呟く言葉もちゃんとワーキュラスが彼に伝えてくれ
て

通じてるから。

ってオーガスタスも、折角のプレゼントに

「高すぎる！」

と怒鳴り付ける辺り。

もしディアヴォロスに、通訳のワーキュラスが居なかったらきっと、傷付いてたよ。

書いてないけど、ヴィラヴィクス邸の昔を知ってる貴婦人伴って

昔道理に戻すよう指示し、どんどん...ゼッデネスの知ってる館に戻っていくのを見ながら

ディアヴォロスはわくわくして楽しんでたんだと思う。

プレゼント。って言うのは...サプライズだと思ってるし。

きっとびっくりするだろうな。

そんな風に思って、彼なりに準備進めてたと思う。

ワーキュラスが言うには、ディアヴォロスは何でも持ってる。

だからその気になれば、何でもプレゼント出来る。

でも、本当に相手が喜ぶ物をプレゼント出来ると

彼は子供のように喜んだって。

ディアヴォロスは確かに、ワーキュラスと繋がり続ける為に大変な努力が必要かもだけど....。

人の宿命のような...孤独とは、無縁の人だからきっと凄く、豊かなんじゃないかな。

王族。とかお金。じゃなくて、心が。

「二年目」でギュンターがやたら強い事の理由。

「二年目」で、ギュンターとっても強いですよ。
アイリスも同様。

けど二人がこれほど簡単に勝つのは
やはり相手の「油断」が大きいんですね。

ギュンター、近衛に上がりた時の時も
やたら上に絡まれて、喧嘩売られてましたが
ギュンターの容貌が、目立つ美貌なんで
弱っちく見えるらしい。

そりゃ、オーガスタス相手にしたら皆、顔引き締めて真剣に拳振るでしょう。
しかし相手が、ギュンター、アイリスとかの、女顔の美貌だったりすると...

大抵、相手は油断するんですね。
だから油断しきったところに素早く、がつん！とやられると、伸びてしまう...

もう一つ、ギュンターの故郷のお話に関係してる。
ギュンターの故郷の男達。
長男シュティツェなんかは、かなり強いんです。
もう幼少の頃から数居る叔父に「長男だから」
と拳で鍛えられているからです。

なので「弟達は、俺が鍛える」
と、シュティツェは叔父達に叩き込まれた喧嘩技を
弟達に振る舞っている。

もし教練に行っていたら...。
ただ、剣技は荒削りでしょうが
喧嘩は半端なく強いと思います。

この強い長男に、隙あらばいつでも殴りかかられていたギュンター。
...そりゃ、向こうっ気も、喧嘩も強くなるはず。
しかも旅先でしょっ中盗賊に追われ、逃げ回っていたから俊敏。
簡単には掴まりません。
掴まったら、男を叩き込まれて国外に売られるので。
そりゃ真剣に逃げるでしょう...

かくしてギュンターは、ディングレーばりの喧嘩技術。
ローフィス並みの素早さ。を併せ持ち
顔で判断したら即、沈む。程、強いのです。

この辺は、オーガスタス同様本人は望まないのに
環境のせいで強くならざるを得なかった悲哀(?)に満ちていますが

結果それで教練では
抜きんでて強い。

その上、相手はディングレー、もしくはオーガスタスの愛玩。
と勘違いし、舐めまくって油断しまくってくれたりしちゃってるので
ギュンターからしたら楽勝。
更に入学当初、ギュンターはひよろひよろで痩せていたので余計です。
その時の印象がよっぽど強かったんでしょう。
ローランデなんかは、細くて優美。
とかって思ってますが
単に旅先で十分食べられなくて、痩せてただけ。

この後、食べまくってしっかり筋肉つき始め
体格が良くなると、それなりに強そうに見えるようにはなります。

近衛で隊長してた頃なんかは
もうちゃんと猛者。っぼく、見えるようにはなっています。
ディングレーと肩並べても
もう「ディングレーの愛玩」には、全然見られなくなります。

アイリスも同様、相手が「おっ！体の弱い美少年」
と侮ってくれたりするから、鳩尾にがつん！と一撃で仕留められちゃったり
するんでしょうね……………。

綺麗な薔薇には棘がある。
と聞いても尚、美女目前にすると
男って騙されたりするけど
その典型です（笑）

追記:殴りかかる方にあんまり聞いてないけれど
ギュンターがやたらグーデン一味にいい態度で
強気なのは、背後にオーガスタスが居て
可愛がられてる（色んな意味で）から
自分達に偉そうにつっかかって来る。

と思われてたようです。

つまり…ギュンターとやりあうとオーガスタスが出て来る。
その…オーガスタスがどうやら恐くて
真剣に相手しなくなってたみたいですね（笑）

四年達はその前、オーガスタスが主に上級生相手に喧嘩してて
ふと気づくわけです。その上級生が卒業していなくなってる事実。
で突然、オーガスタスと対するのは自分達だ。
と理解した途端、…怖かったんでしょうね…。

そりゃオーガスタスはそのガタイの上
奴隷小屋で命のやり取りする程の拳闘に明け暮れていたの
殴り殺す事だって、あった訳だし出来る訳です。

手加減して貰っても歯は飛ぶ。
となったら...当然、戦いたくないでしょうね.....。

この辺りまでお話に入れると更に長くなるので
こんな所で書いてますが
この辺りの事情も
やっぱり入れるべき???